（一）號七十五百六第　（日曜金）日四十二月三年四十四治明　日翌の日祭大及曜月（刊日）（可認物便郵種三第日二十二月十年一十四治明）

京城新報

人の一生は重荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
本紙定價 一枚金二錢▲一ヶ月前金三十五錢▲三ヶ月前金九十五錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵稅一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金 五號活字十七字詰一行金五十錢▲一號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久太郞
印刷人 松久保一郞
發行所 京城西小門通 京城新報社 電話大四五六番 三番
仁川支局 仁川宮町三丁目 電話二一二番

●遼陽附近の農業

滿鐵經理係管內の耕地は最早本年度の貸付を終了せるが多くは前年の借受者に繼續せるものにて其大半は清人なる由而して本邦人中實際に耕耘の業に從ふものは滿鐵農園の外個人としては大矢組支店、生田友次郞、橋尾勇次沙河の五十嵐某、鞍山站の森某、湯崗子の井上某等少數者なりと云ふが孰れも目下は試作研究中に屬し果して如何なる種類のものが適當なるとも斷定し難きを以て寧ろ土人が多年作附の經驗に鑑み大豆、高粱及び蔬菜の類を播種せんとするものゝ如く唯大矢組のみは師團に納むる目的にて馬糧を栽培する計畫なりとか要するに大農法に通曉せざる邦人が姑息的耕作法を墨守して而も好成績を擧げんとするは頗る至難の業なるべし

●歐洲行大豆運賃

大連港より歐洲迄の大豆滊船運賃に就ては將來各船會社に依り一樣ならざるが昨今普通運賃は上海に於ける積替並に船內人夫賃を合せ大凡そ一噸三十五志即ち我が十七圓五十錢內外にして大豆業者の如き滿洲特產物に對しては各滊船間別段の規約なきを以て其間多少の競爭あれども何れも輸出開始當時に比し非常に低減せりとなり

●新義州の築堤計畫

新義州の地たるや土地濕低にして昔時の河洲が僅かに洲を生じたるに過ぎずと稱す可き程なれば洪水の際は浸水の難を蒙り日本人は勿論朝鮮人も亦安んじて永久的設計を爲すものなきは永遠に同地の發展を期する上に於て不得策の極みなりとして今回同地居留民團にては民會を招集して築堤費五萬圓の民團債募集の事を可決し其筋に向つても相當の補助請願をなすべしといふ

●清津埋立地競賣

清津港第一期埋立竣成地六千五百餘坪を十六地區に別ち來る四月十五日午前十時より清津府廳に於て一般希望者の競賣に付すべしと云ふ

●高女卒業生と方向

京城民團立高等女學校は廿四日卒業證書授與式を舉行する筈なるが本學期の同卒業生は四十名にして其成績は昨年に比し概して優等のよしにて卒業後の方向を聞くに內二名は奈良の女子高等師範學校に、一名は東京音樂學校に入學すべき事となり不日內地歸國の筈なり其他は未だ明かならざれど多分四月より新設する補修科に入學すべしと

●種牡牛配置の場所

北鮮の良牡牛を南鮮に移し以て牛種の改良を圖るが爲めに其筋にては之が實行に着手し居るが其の配置場所は京畿道十一頭忠北七、忠南十二慶北十二慶南十五全南八全北八黃海三合計七十六頭なりといふ

●國有地小作料の改正

國有地の調査に就ては一昨年六月を以て着手し昨年九月終了したるが其の結果として小作料徵收の規程を變更し直ちに之を施行する豫定なりしも都合により一時延期し居たるも本年の徵收時期より愈々實施する由にて其內容は從來の小作人と政府との間に介在したる中間小作又は舍音を排斥するを目的とするものなりといふ

雜錄

◎馬山浦片信（下）

釜山にて　秀峰

吾人商人としての馬山觀、今暫らく之れを語るを避けしめよ、吾人が鎮海灣を見んとして、直ちに此所に來らず、遙かに釜山に至りて、而して此所に來る理由、即ち商人としての觀察の然らしめし處である。

風景美、蓋し朝鮮第一を推稱して可なりであらう。

山容水態、清洒たる處女の如く灣曲汀邊、大艦を抱くは、之れ豪壯なる將軍の如くである。

日は暮れなんとして、雨靜かに落つ、朝霞、僅かに晴れて、岬雲次第に消ゆ、扁舟に掉して海上に出つ、三周の山岳恰かも蟠屈せる龍の如く、ひよろ／＼たる松は其鬚にも似たる、掉歌水に響いて、早くも鎮海灣內に來る。

浮城の大艦幾隻、第一艦隊の雄姿は堂々として、艦旗は美しく朝光に映ずる何等の快！

魁洞、飛鳳、之れ將來の軍港市街地、牟や正に、天風吹き來って巨人の大斧下らとするの慨を示して居る、誰れが將來の成功見ぞ、止まる數日、晴好雨奇の賞を擅にして時昔、釜山行の滊船に搭した。本夜、連絡船中の人とならん、關門一周、直ちに再來せん、あゝ、木覓山巓春風漸く洽ねし、切に諸兄の清健を祈るのである、グードバイ。

●世ご友（下）

みや生

先方で親友がある者必ずしも我が親友ならず、此方で頼みにしつゝある者が其割に力に成つてくれぬものなり、每日會つて居てもあまり氣の合はぬ者もあれば二三年往來はしないでも肝膽相照すものもある、每日の樣に手紙をよこす友は後ちには得て年始狀も忘れるもの、明日にも尋ねて來さうに云ふ人は大方一年たつても來ないものだ、友は力になるも同時に又厄介にもなるものなり、幼年の親友狀時に及んで途に會ふも語なし、一日僅かに二十四時間八時間は先づ睡るとして殘の大切な十六時間を何うか爲ると他人の爲めにメチヤ／＼にされてしまう事あり、一生僅か五十年、自分の爲めに生れたか他人の爲めに生れたか、こんなことを考ゑると我身で我身が解らなくなるが、ヨシ自分の爲めにもせよ又他人の爲めにもせよ、それで自分の氣が濟んで居れば先づ能事たれりであらう乎、

文苑

◎鷄林集（二）

安東花儒園寄

▲春の卷（下）

船きらひ車きらひも旅をして　雲
埒なきてどそ笑ひ種なり　海
獻立の通りに鯛のうろひかね
むし書してゝ娘かくるゝ
世を偲ふ身には涙の絶間なく
雨まで滲よて暮かるゝ年
餅搗きの四方八方はり合ひに
ひろしとはこる村は千軒
智惠袋に行は和尚に持なされ
煤ぬきすれは慣める古書
名月は輝きふりもてとなりて
柳はら／＼散つて仕舞ぬ
沙魚釣の自慢も例のうそ七分
毀角汲んで出した茶も水
まゐ窓は當世風のからすはり
海をへだてゝ山並ひけり
幸に風の〜〜きしはなさかり
蝶に〜たしむ此頃のひま

右湖尾

◎新刊紹介

△文學界（第一卷第一號）近來文學に關する雜誌中には青年をして却て方向を誤まらしむるもの多きが本誌の如きは趣を異にし倫理の大本に重きを置き執筆者の如きも井上哲次郎博士澤柳氏上田博士等始め知名の士を網羅し浮薄なる淫靡的文字を載せず事項を「論叢」「文科教育」「學林」「叢話」「雜錄」「思潮概觀」「詞苑」等に分ち各欄共教育家は勿論中學生及び一般青年必讀の記事を以て充さる向卷頭藤田東湖自筆版正氣歌を掲げしに依て本誌の抱負を窺ふに足る（一部十五錢東京市牛込區若宮町二十七文學協會）

△實業之世界（三月號）本誌掲載記事中澀澤桃介氏の「讀者を一躍に富閑」せよ願へ吾人の意を得たるもの又同氏の「出世の秘訣如何にして貯蓄すべき乎」是亦勤儉貯蓄論として肯綮に中れり其他見るべきもの多し（一冊十一錢東京市芝區愛宕町三丁目實業之世界社）

△朝鮮農會報（第六卷第十號）本號所載記事中村彥氏の「朝鮮農業の現在及將來」向阪農學士「稻作の改良に就て」等なり（一冊二十錢京城大和町二丁目朝鮮農會）

△東京金物新報（二百七號）一部五錢東京市淺草區西鳥越町東京金物新報社

召使れ初

黒法師

第三十二回

「一向承知無い」と國尾は深く氣にも止めず「れ上御用を帶んだ身、何串御用か存せぬが、れ目に掛ること爲らぬわの」

「御有理御詞、さらば其事、善吉より御客樣へ申し上ぐるぢや」

れ致は心得て立ち去る、國尾は退儺げに彼の一幅を卷き納めて。

「床脇に窓がある、誰の筆ぢやの」

「米元章筆でござりまする、相阿彌極め山御物、御一覽下さりまするか」

「世に珍らしい品、拜見致さいで什麼しやう、され／＼」と又催促、れ道徐かに膝行り寄りて、彼の一窓に手を掛くる時、れ致は再び次の間に入り來る

「申し上げまする、善吉どのから只今の御返答申させたでござりまするが、れ客樣一向れ聞入れござりませいで、是非御目通り、折入つてれ願ひ申すことありとのれ詞、店頭に押上らせ、れ動きもなさせられぬ氣、什麼と致したものでござりませう喃」

「まて困るの」と德兵衛は額を撫で「全体何處の御家中ぢや」

「石州津和野龜井隱岐守樣御浪人と申すことでござります」

石州津和野と聞きたる時、國尾は顏を遑げたるが、されど何氣に止めたるさまもなく、彼の一幅を採り廣げぬ。

「津和野樣はれ館御緣邊、されば御存じ御間かも知れぬ」と德兵衛は獨り承知して「御方御聞かせむりましたか喃」

「流石は古今名筆、この米點いかにも美事ぢや」と國尾は餘念もなく見入りつゝ「左樣な人一向知らぬ」

「津和野樣御浪人とあるを、御知らせござりませぬ喃」

「些も承知せぬ」と宛ら上の天の樣に答へて「圖らず眼の正月致したよ、古今名畫を拜見するほど、心に樂みを感ずる事ござらぬ、れ給仕の衆うれ／＼く れ方付け下されいの」

「さらば御對面は無させませぬ喃」

「御用さきで私に逢ひは爲らぬ、ふつと御斷りめさせくれ」

國尾は極めて嚴格なりき、五万四千石のれ奥に一人ありて二人なき眼致好と呼れながら四十を超る此身まで獨を守たる心は宛ら男の如く堅固也き佐倉と名乘れる浪人者がいかなる用向を帶び居らんとも、彼女は御用の途中に對面を許すほどの女にてはあらざりき、德兵衛は兼てよくろの氣質を知れるが故、理由を語りてれ致を追い遣る。

「先刻から拜見した中では、蛇足筆の眞山水が秀逸ぢや、當家でも御秘藏ごさらうの」

「さほど御賞美、今日御來らせのれ禮に、獻上致して支ねござりませぬ、御受納下さりませうかな」

「いや／＼、宮仕へする身に、珍器將て什麼と致さう、當家にあつてこそ家寶、私共手に入つては、れ小袖れ當衣と選ぶ所もない、平に御辭退、只時々に參上、拜見を願へば事足る」と國尾は德兵衛の厚意を斥けて、ほつと一息吐きたる時、れ致は三たび出で來りぬ

「恐れながら今一應申し上げまする、彼の御方、年寄澤野樣肉身の甥御樣に在らせられる氣、枉ても御對面下さるやうと、頻つて御願はせでござりまするが如何斗ひ申すべいかと、善吉どの御迷惑に見ゆさせまする」

東京電報（廿三日）

▲東宮御出發　東宮殿下には廿四日葉山に行啓あらせられ二十七日横須賀より御乘艦佐世保に行啓遊ばさる

▲東伏見宮奉別宴　廿日今回渡英の東伏見宮殿下に對し貴衆兩院議長の主催にて盛大なる奉別宴を開けり

▲戴冠式日取り　英皇戴冠式奉祝式は六月十九日より十日間戴冠式は二十二日觀艦式は二十四日スピチヘツトに於て擧行す

▲英大使歸國期　駐日英國大使マクドナルド氏は來る五月上旬出發歸國す

▲首相議員招待　桂首相は今二十三日貴衆兩院議員を招待して慰勞宴を張る

▲最終日の衆議院　廿一日午前十一時十五分開議諸般の報告あり直に日程に入る

第一　犬養外二代議士提出の決議案を附議し國民黨の代表者島田三郎氏同志の拍手に送られて登壇輕快なる辯を揮つて外交の失態殊に對米外交上に於て新條約の締結に當り現行條約第二條但書を削除せりと雖ども事實に於ては依然として移民制限を聲明しつゝある[illegible]は追徴するや否やと問ひ若槻大藏次官は營業所得税の増收は豫算に輕少に見積りたる結果に外ならず郵船會社其他の脱税は當時税務官吏が法律の解釋を異にしたる爲にして今日に於ては會計檢査院の主張を至當と悟りたる故に政府は同意したるなり但し解決を誤つて爲したるものを改めたる次第なれば其の時より以前の脱税を追徴するは不穩當なりと信ずと答へ終つて國民黨第一の財政通武富時敏氏は一同の拍手に送られて悠然として登壇例の謹嚴なる態度、莊重なる雄辯を揮つて財政監督權を有する帝國議會に豫算の決定權あると共に決算の責任に於ても嚴正ならざる可からずとて不當支出に對する政府の不信認決議案提出の理由を極めて簡明に演舌し終つて花井卓藏氏登壇例の熱辯にして整然たる法理論より委員長の報告中にある政府に警告を與へて云々の文字を以て無意義なりと痛論し飽く迄不當支出の責任ありとて決議案に贊成の意を表す此時菅原進行係其他より討論終結の聲盛に起り採決の結果終に此決議案も否決となり委員長報告通り決定、時に零時四十分休憩を宣す、午後一時半再び開會午後引つゞき開會各建議案一瀉千里の勢を以て可決し三時四十分各案共議了を告げ散會せり

議會閉院式　二十三日午前十一時第二十七帝國議會閉院式[illegible]

蠶絲業法發布期　今期議會に於[illegible]蠶絲業法案は明年一月を以て實施さるゝ豫定にして尚施行規則は本年六月中に府縣技術官會議を開き審議したる上制定せらるべし

●會議所の政治運動　商業會議所[illegible]來は會費滯納者頻出し[illegible]の困難を來たし中には[illegible]に立ち至るものあり[illegible]數は減税問題を云爲[illegible]熱中する爲め政府は[illegible]苦心し居れり

●古谷久綱氏渡鮮　李王職御用掛[illegible]朝鮮に出張仰付けら[illegible]は在京中なる王世子[illegible]昌德、德壽兩宮に言[illegible]打合せの用務を帶び[illegible]て四月早々渡鮮の筈

●朝鮮問題と議會（二）　[illegible]會議に於て朝鮮銀行[illegible]原案の通り通過せり[illegible]これにて本府關係議案は悉皆修了したり尚朝鮮に於ける貨幣整理の爲め生じたる債務を貨幣整理資金特別會計に屬せしむる件に關する法律本日の官報を以て公布されたる官制は午後六時見玉局長より政務總監に公電ありたり

●總督と米税問題　朝鮮及內地間の穀物移出入税撤廢問題は議會にては何人も其必要を認め居れるが不幸今期議會には其實現を見る能はずして閉會したり然るに政府に於ても漸く覺醒せるもの如く就中寺內總督の如きは興論の熱望斯くある以上是非とも來期議會には政府案として提出すべく明言し一方大藏省當局と交渉の上之が撤廢に伴ふ利害を調査研究中に在り而して總督府へも此旨內訓し來れりといふ

閑却されし國境問題　神谷平北內務部長談

平安北道內務部長神谷卓男氏を訪ふ談偶々國境問題に及ぶや意氣正さに斗牛を衝くの概を以て語つて曰く元來國境問題は半島をして地壤を大陸に接する以上當然必起を免かれざるなり現に其例證を歐洲各國に求めんか吾が朝鮮と同一地勢に在る國は孰れも均しく境過に在りて隨て其經營に就ては多大の苦心を注がれつゝあり然るに顧つて之を吾が國に顧みれば如何興論の指導を以て任ずる新聞記者すら尚は其の**研究を閉却**し居るの有樣に在り豈に**深慨**に堪ゆ可けんや然らば國境方面の現狀如何かと言ふに殆んど支那人の跋扈に委しつゝあるの有樣に在り例令ば經濟上其中心たるべき通貨の如きを見るも堂々たる吾が**帝國の發行貨幣**は、雜然不規律なる**淸貨に依りて相場を立て**られつゝあるが如き**冠履顛倒**も亦極まりと謂ふ可し思ふに斯の如きは鴨綠江貿易をして彼れ淸人の壟斷に委し去れる結果に因らずんばあらず試みに同江を往來する淸船の隻數を算するに無慮三千を下らざるべし之を種別すれば戎克船、槽仔、箱舟及油板の四種にして此內上流に遡行し中江鎭近に由に達するものは槽仔なるが其數約千二百艘の多きを算す此千二百艘は實に鴨綠江貿易の利權を獨占せるものにして目を國境問題に注ぐものは苟くも之が研究を怠るべからず今茲に彼等の組織を說かんか安東縣に淸船會議所なるものありて同地有力の問屋によりて結合せられ該槽仔は其下に屬し居るものとす而して該槽仔は四隻を以て一組として各監督を置きて廻漕の責任を果たす仕組みなるが斯是れ槽仔と問屋とは同一利害の下に立つを以て其規律節制大に見る可きものあり彼等は斯の如く完全なる組織の下に同江の運輸權を獲得せるのみならず其經營甚だ堅實を極め往航は鹽を積み歸航は大豆其他の穀類を以てし江岸の需給を一手に占得して苟くも他をして乘ずるの餘地なからしむ現に朝鮮人の經營に係かる若干の槽仔あるも既に其問屋との連絡を保たざる以上到底經營し能はざるを以て不得己彼等の膝下に遠ざけ其頤使に從ひ居るの有樣なり同江の運輸權夫れ斯の如くなるに更に進むで江岸の農民には農耕資金を融通し其生產物は悉く其手に收めつゝあるが如き誠に驚嘆に外ならず之に對する朝鮮人は如何と見るに江岸一帶の現狀は物々交換の狀況にして彼れ淸船の航來に依りて漸く生活上の必需品供給を受け居るなり其結果安東縣に於ける**鹽百斤の價**格は約一圓五十錢なるに、**中江**鎭附近に到れば**五圓五十錢の高價**を示めし其高差四圓は彼等の利益に供せらるゝ筈に是のみならず農耕資金の貸付を受けて之が利子を仕拂ひ更に其生產物は彼等の評價に強制せられ恰かも貿易上小作人の觀を成し之が爲めに三重の損失を蒙り居るの慘況に在り同地方朝鮮人の貧弱なる事乃當然の結果にして豈又憐む可きの限りならずや江岸一帶の概況は上述の如くなりと雖も一方兩江岸の土地を查察すれば吾が朝鮮は甚しく不毛磽角を極むるも彼は地味膏腴にして小作料亦低廉なり故に**淸領に移住**して現に同地に農業に從事し居るもの**五萬餘名**を算し此の**面數三十八面**の多きを示めせり然るに支那人に到りては吾が江岸に在住するもの寥々數ゆるに足らず僅かに千餘名の少數なり五萬餘の朝鮮人彼の地に移住せば一見其勢力侮る可からざるが如きも豈に圖らん其**實質は彼等**の**奴隸**に過ぎずして何等の效果を發す能はず却て千餘人の少數に過ぎざる吾が江岸在留の淸人の爲めに[illegible]を捧げつゝあるなり要する鴨綠江岸の狀況を一瞥せば**支那人の潛勢力絕大**なるに驚くと共に**朝鮮人の無氣力**甚しきを痛嘆するものゝ獨り吾輩のみならんや思ふに**同江の運輸權を奪**ひ之を**吾が經營下に移**し更に疲弊極に達せる朝鮮人の窮乏を救ふは刻下の**急務**なりと信じ既に一大劃策を案じて**總督府と協議中**に在り云々

●郡守會議と訓示　二十三日午前十一時今回郡守會議列席の爲め滯京中の各郡守を總督府に召集し政務總監代理國分人事局長より施政方針に就て一場の訓示する處ありたり

●韓銀拂込期　韓國銀行にて株式第二回拂込金一株に就き二十五圓の割合を以て四月三十日迄に拂込方を各株主に對し催促狀を發する由尚拂込金取扱銀行は韓國銀行本店、大坂支店及朝鮮內各支店、出張所並に東京第一銀行本店及第一銀行京都、橫濱、神戶、名古屋、下の關の各支店

●京城民會開議　二十三日も午後三時より引續き居留民會開設議事は歲出豫定案の第一讀會なり

▲人さま〴〵▼（十三）

生田淸三郎君

農商工部書記官生田淸三郎君は私立大學出身の秀才と評はれて居るデ君は八面玲瓏の才人と稱せんよりは寧ろ輪郭の如たる學者肌の人である、出身は法學院で高等文官及司法官の二試驗を經來つた處を見ると頭も可なり能い方であるらしい、屁ツ鉾役人なんぞは罷めて洋行でもしたら博士號位は贏ち得るかも知れぬのに惜しい事だと言ふものがある、君在學中は楊弓今は大弓狂ひで現に大和町の某官舍に採を設らへ朝に晩に金的を覗つて居る、三日月旅館寄宿中も或る的を覗ひ當てた艷名は言はぬが花よ君近頃餘まり覗ひの度が過ぎて胃を病つて居る、但、其病因は大弓の的に在るか何ふかは保證の限りにあらずだ。

東拓の疑獄

世間より其無能を叫ばれ批難の集中點となりたる東洋拓殖會社にては近時**重役連不品行**の噂さへ傳はり益々一般を嚬蹙せしめ識者をして會社の前途を憂慮せしむる事實に甚だしかりしが今回同社金費消てふ一醜事を惹起せし幷が事件の大畧を記せば會社**金融部**員法學士**小笠原信雄**なる者同社へ到着せし爲替金を數十回に竊取し其高積りて**一萬餘圓**に達せしことを發覺せるものにして犯人信雄は本件の稍や其筋の注目する所となるや早くも風を食つて逐電し目下其筋にて嚴探中なるが**爲替金竊取**に付ては本社の印章若くは會計主任の印を押捺なくんば出來得べき事にあらざれば犯人は小笠原のみに止まらず他の社員數名共謀せるの疑あり檢擧の進行に伴ひ**意外の邊に關係者**を出すことならんといふ現に角[illegible]には出張所にて多數の籾を燒失し續いて出張所員の社金拐帶あり今又此醜事件を出すとは畢竟**重役の監督不行屆**の責は免がれざるなり

●東拓の移民地　東拓會社は既に第二回移住民一千戶募集を發表し內地各府縣へ照會中なるが移住申込の期限は六月三十日迄にして九月三十日迄に承認の有無通知を與ゆる筈なり而して該移住民の配付豫定地は左の如し

▲京畿道（京城府及廣州楊州驪州各郡）二四〇戶
▲黃海道（平壤府及黃州鳳山載寧信川の各郡）一六〇戶
▲忠南道（扶餘舒川林川連山の各郡）七〇戶
▲全北道（礪山龍安金堤金溝古阜の各郡）一一〇戶
▲全南道（羅州光州の各郡）一二〇戶
▲慶南道（馬山府及金海河東泗川固城の各郡）一九〇戶
▲慶北道（大邱府慶山淸道永川慶州玄風各郡）一一〇戶

●郵便爲替規則　二十三日總督府令第二十七號を以て七十六條より成る朝鮮總督府郵便爲替規則發布されたり因に同規則は來る五月一日より之れを施行すべしと

●軍司令官の宴　二十二日午後六時より大久保軍司令官は同官邸に今回歸國すべき前京城駐在露國總領事リモフ氏の爲めに送別の宴を開かれたり列席者は各國領事夫妻明石警務總長等也

●明石總長の招宴　明石警務總長は二十三日午後六時より京城ホテルに今回警察署長分隊長會議に列席中の諸氏約二十名を招待し慰勞の宴を開く筈なり

●入學願書の受付　京城民團に於ける本年度就學兒童數は約八百四十名中期日迄に入學手續を了せしは五百名餘にして殘三百餘名は今尚未屆出に付民團役所にては本月中願書を受理すといふ

●南大門小學校卒業式　南大門尋常高等小學校は豫報の如く二十二日の佳節を以て四十三年度學期修業卒業證書授與式を擧ぐ百餘坪の大廣間約千四百名の式場としては狹隘の爲め午前午後に別ちたるが孰れも各父兄來賓の參列多く最も盛んに擧行せられたり午後は四學年以上なりしが橫山校長の誨告に次いで古城民長小田學務課長代理峯岸本社長、祝辭演說及生徒總代の答辭あり殊に本社寄贈の勤學賞品に就ては橫山校長懇ろに之を告ぐる處あり斯くて芽出度式を終了せしが同學期中の成績を示せば左の如し

	進級	不進級	優等	皆勤	精勤
一學年	二六〇	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
二學年	二二六	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
三學年	二二九	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
四學年	一九〇	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
五學年	一四二	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
六學年	一三一	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
高等一	八二	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
同二	三五	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
計	一、二九五	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

尚は連續精勤者を聞くに二箇年二十八名三箇年六名四箇年二名六箇年精勤せしもの一名ありしといふ

●櫻井小學校卒業式　京城民團立櫻井尋常小學校にては二十三日午後二時より第一回卒業證書授與式を擧行す卒業生總員五十七名にして其式の概要を記せば第一君が代の唱歌につれ石原校長勅語を捧讀し次に各生徒に證書を授與し校長は訓戒の辭を述べ來賓廣田中學校教授古城民長代理及び峯岸本社長の祝詞演說ありて後生徒總代の答辭あり生徒一同唱歌をなし之にて式を卒へたり因に各學年進級生にも修業證書を授與し且優等生皆勤生に對してはそれ〳〵賞狀及賞品を與へ尙檜垣道長官及び本社よりの奬學賞品も校長より優等生に授與されたり

●外國語學校卒業式　官立漢城外國語學校にては二十八日午後二時より第四回卒業式幷に附設土地調查技術員第一期卒業式を擧行す

●漢城高女卒業式　官立漢城高等女學校にては二十七日午前十時より第一回卒業證書授與式を擧行す

●津輕艦の入港　練習艦津輕は二十三日午前十時仁川に入港仁川府尹仁川民長等は歡迎の意を表する爲め艦長を訪問せり尚乘組員士官候補生は二十四日上陸し京龍觀光の筈にて右の爲め京城民團よりは吏員二名先導として案內の筈にして同艦は來廿六日拔錨竹敷に向ふべしと

●鹿兒島觀光團員　鹿兒島觀光團廿四日入京の鹿兒島觀光團員は島津男爵始め有力なる人々にして其氏名は左の如し

島津貴勝、岡積勇輔、濱田信平、藤安吉之丞、村上純、大河平隆正、佐多直矩、平山隼雄、向井鉻左衞門、上田郁、池田彥熊、藤田休太郎、山元岩次郎、今村緝之助、緒方小彌太、大河平隆橘、森山藤次、杉田平助、種子田新八郎、山本平吉、石原周鑑、知識吉志、澁谷直二、山內佳智、仲田房吉、持永善市、松咲花一二三、萩原榮助、益滿行敬、元政次郎、町田實一、中田文七、上山宇平次、森山正助、久米榮吉、永田源七郎、淵田隆英、郡山貞次郎、枝元常太郎、伊地知德之助、池田角馬、瀨戶山喜次郎、前田貫輔、杉田誠助、藤園嘉吉、野口幸太郎、愛甲直一、園崎龍太郎、江口休右衞門、田中淸次郎、北島保治、福地市之丞、池田政輔、森山昌則、春田岩次郎、玉利仲之助、山下榮助、岩元善藏、山本鶴次郎、村上由治郎、池田彥之助、德永藤太郎、內園莞爾、牧嘉吉、瀨戶川吉之助、關口市右衞門、南鄕武夫、兒玉利助、元山藤藏、竹內捻次、上野正、岩元榮之助、鳥田要輔、河野庄太郎、橫山滿英、田中藤兵衞、倉內末正、鎌山熊、木元與四郎、岩元源藏、北郷親良、川畑伊太郎、肥後圭一、森永彌太郎、兒玉好熊、山本十二、東華裕、大野謙次郎

●試作場主任會議終了　先に本度支部に於て開會中なりし度支部試作場主任會議は廿二日終了したり

●長山乙介氏の歸東　警務總監部囑託長山乙介氏は今回辭職の上近々歸東する由にて氏の知人は送別會を開けりと

●平壤新聞の諺文附錄　平壤新聞社にては今回其筋の認可を得て諺文附錄を發行することゝなり目下準備中也と

公人私人

▲佐藤實治（全羅南道內務部長）天眞樓に
▲三谷軌秀（大每記者）山本旅館に
▲岩藤英夫（水原憲兵分隊長）同上
▲淺岡重習（北韓新聞社長）浦尾に
▲中井喜太郎（咸北道事務官）巴城館
▲深田千太郎（農商工部技師）佐藤旅館
▲藤井寬藏（淸州慈惠醫院長）天眞樓に
▲牟田熊彥（海州慈惠醫院長）浦尾に
▲山田可哉（技師）同上
▲廣瀨長康（殖產會社取締役）大田へ
▲大久保到（全北道內務部長）大田へ

▲京龍兩驛の貨客▼

▲南大門驛乘降客　廿二日の分
乘車客　七六九　下車客　八七二
乘車賃金　一六八八、七六

▲南大門驛荷扱高　廿二日の分
發送　四六噸　到着　五〇二噸
貨物賃金　七五七、九五

▲龍山驛乘降客　廿二日の分
乘車客　二三七　下車客　一九七
乘車賃金　八九、〇六

▲龍山驛荷扱高　廿二日の分
發送　二噸　到着　二二四噸
貨物賃金　七、六九

政府計畫を望む

和田常一氏の建議

太神宮社殿造營問題は漸く世論を喚起し單に當地に於けるのみならず內地に在ても朝野有力者間に熱心唱道せらるゝに到れり思ふに此事たる元來吾が國祖の神靈を奉齋する所以たるのみならず直接間接に新附民統治上甚大の效果あるや疑なし然るに京城民團に於ける新年度豫算を見れば僅かに造營費三千圓を計上し任るのみにして斯かる少額を以てしては到底理想の建築を營み難かるべし而して該問題に熱心なる和田常一氏は大に之を遺憾とし且つ該社殿造營の如きは其性質上寧ろ國庫の經營に屬すべきものとす此際姑息なる造營を爲さんよりは總督府を促がすに如かざらんと欲し之が建議案を今次の民會に提出する筈なり

●警部豫備試驗執行　警務總監部在勤巡查の中判任官の資格を有する者に對し[illegible]

[illegible]時古市町百十九番戶鍛冶職家迫藤次郎（三）[illegible]大金和春を毆打負傷せし

▲相場電報（二十三日）明治町西村支店着電

▲京坂間　▲電鐵同　▲大坂同　▲紡績同　出來不申　六一、六〇　六二、一〇　[illegible]

▲大坂間　▲株式同　▲同新　▲取引所　二三〇、五〇　二三〇、四〇　[illegible]

後場三月寄十五圓六十一錢▲止六十三錢▲四月寄七十三錢▲高七十四錢▲五[illegible]寄十一圓七十七錢▲最高七十八錢▲最低七十四錢▲止同上●廿三日前場　三四月出來不申▲五月[illegible]

▲京城手形交換高（廿三日）　金高　[illegible]　枚數　[illegible]

東拓の實踐躬行

▽盜まれた金は株主の物

實に堂將の下に弱卒なしとか、扨も東洋拓殖會社と云ふは人も知る一千萬圓の資本にて朝鮮開發の大使命を帶びて居るとかなり夫れからかして普通ならば社長と云ふ所を總裁とて之れには三位中將一正卿、副總裁には前内務次官吉原三郎君、今樣に理事と云はるゝ面々には岩佐、井上、林の諸達其以下に至りては秘書役長の入江を算へ小學校を卒業したるものは數知らず召し使ふと云ふ大會社なれば其重役方の給料と云ふも莫大なり、されば……こう間拔けの腑拔けの鐵管野郎のガンガラ漢と云はれても一向聞へぬ風をして給料を受け取るのを樂しみにして居るのとかなり、如是我聞、孔子樣は衣食足りて禮節を知ると云はれたりとか、るもなら此れは孔子樣の量見から割り出されたる胸算用、二進が一進の算盤から行くと東拓の重役達は差し詰め禮節指南役になる資格はあり、然るに此の資格を持つた御本尊と云ふが前から申し上げる通りの淺間しいカンテラの動物たる人間、衣食足りて禮節を知つて少し計り知つて居たでも忘れて終い御大將ではない中將殿がアノ態をして正妻と權妻とを同列させて自慢氣に物見遊山に引つ張り回して躬行實踐の範を垂るより大病人のサブさん、名は体を表す吉原雀のロシ死ぬまでも此の道計りやあ忘られねえと一奴の膝に凭れて中氣病みが探られた如く止め度もなくダラダラと涎を流して鎧しがつてる始末、挑番聯かお夫れを妬くではないが斯る間に會社員の監督、事業計畫等一切の事はお留守となつか隙に乘じて一切の事はれ留守となつか隙に乘じて不埒の數々を盡す若い者もある中に金融部の小笠原法學士、直接の監督者たるテイさんがれかみの面に穴を穿けて居る油斷を見濟して本年二月十四日迄に一萬餘圓を猪呂麗かし翌十五日ドロンの合の手もなく遁亡に及んだが夫れと會計で知つた頃は犯人は北の方なら露都あたり、南の方なら臺灣の新高山の嶺頂でトンビトロロと輪を畫いてる時分の十日も後のこと、併し元來取られた金とて自身の物と云ふでないから重役達内心頗る安心はして居るもの、給料の手前薬てゝも置けず會社の費用だから惜氣もなく捜索費を支出して行衛を探して見たが逃げた小笠原には十人並の血の氣が通つて居ることとてボンヤリ其所に突立つては居ないので捉らず詮方盡きての哀沙汰地方裁判所は兩角檢事の手掛りにて犯跡及び蹤跡取り調べ中、春は長閑で御座んす哩なあ

幇間と家宅捜索

▽恥は掻きつけた一福

さるにてもさても其の殘さる程に東拓金融部の小笠原がチョロと八千餘圓をアンコウの潮待ち得たる思ひして梵天國を極めたるは別項所載の如くなるが此所に哀れを止めしは南山町は花家の棟の下に巣を營つて居る狸の一福、本年一月二日の夜小笠原が初めて鍋蓬樂に飲みに行つたが一福と小笠原の知り初めにて御贔負の藝妓は元仁川は淺岡樓にて辣腕を揮つて八千代とかの武者の果秀香と云ふのを御寵愛あり現に二月の十一、十二は幸ひの日曜に大祭打ち續く休みを利用して一福を伴に夫婦氣取り仁川へ下つて一鱗で乃木酒亭、旭樓に一泊の翌る日の終列車にて歸つた程、越へて十四日見れば馴染の小笠原にミツ島、初見の平野さんの三人連れ座に侍べつた藝妓は住江、梅吉、秀子の一座陽氣に騷いで三十二圓餘の勘定を韓銀十圓札にて四十圓、纏頭として一圓宛を與れて殘る二圓と余をポケットに立ち上つたが其の晩限り別記の通り隨番寺と聞いてゲエーと吃驚して居る翡翠から一福へ口が掛つた行つて

三月二十一日午後兩角檢事は書記一名に南部署の長野刑事を隨へて狸の宿へ巣窟搜索として出張さの小笠原某の刑事被告事件に係り云々にて所持品一切檢むべきものなりと申渡されしにぞ吃驚に衣を掛けて驚いたが根が人を知を爲いい至極圖々しく生れついたる一福だけに目も眩さず所持品迚も柳行李が三つが程取に出し澁つて餘儀なく夫れへ列べたのを檢め見に……分らぬ玉章斗かり夫れに續いて安東縣から大連旅順辺の賀札合計十七枚決して脈品では御座いませんと開かれぬ事まで饒舌つた調子も怪しげにブルブル慄へて居たりけり檢分は進めど一向證據となるべきもの影も見へぬに聊か拍子脫けのした兩角檢事も役目の上とてガなく三つ目の柳行李を檢分して居た手にドッシリ觸れたが五百圓の紙包一個、キラト檢事の眼は輝いて怖々して居る一福の面前にヅツと差し付け威丈高の名を云ふと爲になるぞ白狀しろとありしに一福一言の申譯も無く恐れ入つて仕舞 ……

[illegible]

●仁川疑獄豫審決定

仁川米豆取引所重役加來榮太郎氏は去月二日同桑野良太郎氏は同四日奥田貞次郎氏は十三日孰れも京城地方裁判所仁川支部に召喚せられ取調の上豫審判事の令狀にて拘引されたるが奥田氏は去る十六日加來桑野の兩氏は廿一日孰れも保釋を許され歸宅したるが豫審判事は一件記錄を精査の上取調中なりしも遂に去る二十二日の祭日に係はらず當日豫審判事は一十二日の祭日に係はらず豫審の結果廿二日を以て左の通り決定せり

本籍福岡縣築上郡山田村大字四郎丸五百三十六番地平民貿易商當時仁川本町二丁目十九番地
加來榮太郎(五十五)

本籍千葉縣東葛飾郡行徳町關ケ島五十七番地平民貿易商當時仁川濱町二丁目一番地
桑野良太郎(四十二)

本籍長崎縣長崎市銀屋町四十三番地平民貿易商當時仁川本町二丁目二十一番地
奥田貞次郎(五十六)

右に對する詐欺取財被告事件に付檢事の請求により豫審を遂げ終結決定すること左の如し

主文

被告榮太郎、良太郎に對する本件を京城地方裁判所仁川支部公判に付す

被告貞次郎を免訴し且つ放免す

理由

被告榮太郎は株式會社仁川米豆取引所理事長被告良太郎は同所の理事の職にありたる處明治四十一年十一月頃同所監査役被告貞次郎外四名と共同契約の下に仁川各國居留地々先埋立組合を組織し爾來續工事施行中被告榮太郎は取引所を代表し同所重役田中佐七郎荒木助太郎及被告良太郎の同意を得同四十二年二月十日埋立組合の代表者頭原修一郎との間に取引所に於ては代金を埋立工費に充つる目的を以て該埋立竣工し且競落したる曉其地區内九百坪を撰定授受すべき趣旨にて代金三萬千五百圓とし賣買契約を締結し尚被告榮太郎良太郎兩名に於て右修一郎と協議を遂げ取引所より交付する代金中より金六千圓を兩名の所得となし同一萬千圓を被告兩名が他の二名と共同經營せる江原道麟蹄郡封山森林伐採業に流用せん事を謀り前記契約當日二萬三千圓同三月九日八千五百圓を被告榮太郎に於て取引所財產中より右修一郎に交付し同日(三月十日)被告兩名は各三千圓宛を自巳の所得となし同三月六日及び同十三日に二萬千圓を右修一郎をして前記伐木事業に費用せしめたり續て該埋立地は同年六月十一日完成し測規に遵ひ各國居留地會に引渡したる上同月十九日豫期の如く前記組合に於て競落し之れが所有權を所得したるか爲め前記契約に基き地區を選定し所有權移轉の手續を履行すべきの處前述の如く取引所より受領したる金額を擅に分配費用したる等の事情あり該工費四萬餘圓を支辨するの途なかりし爲め故らに前記九百坪に對し移轉手續の履行を請求せず同年七月一日埋立地全部を擔保とし東洋拓殖株式會社より金五萬五千圓を借入れ因て以て取引所は財產上の損害を加へたるものなり

以上の事實は證據十分にして被告榮太郎被告良太郎の所爲は刑法第二百四十七條に該當するを以て刑事訴訟法第百六十七條第一項に依り決定せり

被告貞次郎が明治四十一年二月取引所と組合との間に前記埋立工事竣成の上埋立地區内九百十坪を選定授受すべき趣旨を以て代金二萬千五百圓にて賣買の契約成立したる事實は其後に至り聞知しながら同年七月該埋立地を東洋拓殖株式會社に擔保に供することに當り保證人として連署したる事實は明瞭なりと雖も組合の利益を圖り取引所に財產上の損害を加へたれと認むべき證憑十分ならざるを以て刑事訴訟法第六十五條第一號に依り決定すべきものとす

仍て主文の如く決定す

明治四十四年三月二十二日

京城地方裁判所仁川支部
豫審判事　春川　恭助

●南大門校優等卒業生

同校に於ける優等卒業生は尋常科男生六女生五、高等科にて男生二を出したり之に對し本社は既報の如く賞品を贈呈したり其氏名左の如し

尋常科
鹿兒島縣人稻彦氏男　上原　秋三(十四)
東京府人竹鼻氏男　中村　薫(同)
岡山縣人源平氏男　野崎　美稔(同)
福岡縣人吉太郎氏男　濱　隆之助(同)
東京府人寅三郎氏男　後藤　三郎(同)
大分縣人春治氏女　古賀しづゑ(同)
東京府人一實氏女　笹岡とよ子(同)
同　上德十郎氏女　仙波しづ子(同)
同　上四郎氏男　神谷きよ子(同)
岡山縣人秀一郎氏男　岸本ひさ子(同)
福岡縣人藏三氏男　淸原　義夫(同)
高等科
東京府人寅三郎氏男　後藤　文雄(十六)
大分縣人重太郎氏男　小川　定亮(同)

●櫻井小學優等卒業生

二十三日同校に於て舉行せられたる優等卒業者名は左の如くなるが本社より夫れ夫れ賞品を贈呈したり

大和町二丁目總督府官舍晋作氏男　齋藤　隆(十三)
同　三丁目同彦氏男　中村　正彦(十四)
龍山元町三丁目武平氏男　小川　太平(十三)
大和二丁目末五郎氏男　澁谷　幸(十三)

●湯屋荒し捕はる

愛知縣人當時住所不定下村藤兵衛(四十)は前科數犯の曲物なるが本月十二日永登浦監獄出獄後京城に來り同日午後七時頃壽町番湯に至り浴客の衣類籍に入れある銀側懷中時計(代四十餘圓)を窃取したるを初めとし外數十ケ所の湯屋を荒し數百圓に相當する金品を窃取したるが遂に南部署に檢擧され檢事局に送らる

記者足下筆硯益々御勇健、扨南山候借て懸償の牒尾に附て紅筆を染めあらあらさつと見も近代的に心機一轉婦人仕候▲開進亭の梅助前身は井門本店の腳香腰漢者夫れが原因で永らくの病院生活やつと全快してから元の富田屋に流れてみ相變らずの不見轉オーヲイ盛んに活動して居る最中富田屋が潰れたので昨年の八月から今の開進亭に鞍武者と成つた後は漸石に當年二十三の朝鮮三界はおろか安東縣までも股にかけて來た南山川の三千年あらゆる戰場を往來してきた强の者とて對手選まず東西南北へ出征して一日も休戰せぬとはあの骨と皮斗りの体格で能くまま續くことよと傍輩達の噂は御尤かり▲れ次は淸水席の松葉てれも腳よりは膠專門雨の降る夜も風の夜も不眠不休の悪戰苦鬪に顏色憔悴肉落ちて那寒しと跡も稼ぐに追つく貧乏なしで大稼其子の貯金が日々にふゑてゆくと日局員の噂斗でなく世間自から定評あり▲同席の政彌チョコマンサラまで一見虫も殺さぬ猫冠りがいざ鎌倉と云ふときに仕舞の老妓も舌を卷く程の凄腕で推れが獨得の秘曲にかゝつたものは忽ち白旗軍門に降り永く忠實を盡すとやらそんじよ其邊の藝達の保證で御座る▲た次は松葉亭の駒榮明治十九年生れの石川花子と何も戶籍調べの必要はないれど何がさて一千圓以上の假振りがあるので死んだ餘の子手も足も出ぬに牛やけと牛あせりの氣味で寄さへ見れば皆さん御存じのあの甘たるい調子で油を掛けて媚垂れるので大抵の有像無像は忽ち魅られて財布を振うので花も能く賣るが髮も毎日こわれる其働きの割には何日もれ小遣ひに不自由勝ちとの世の中に神も佛も御座らぬものか▲れ次の番は翡翠の梅助体格の偉大なると目玉の大きいのと眉毛の太いのと普通の義太的に太いのとれまけに或る面積の廣いのと何處までも先天的專門家の資格は滿點、備はつて居るせいか樓中切つての惡喰屋で凡ろ人間のあらゆる階級を試みざるはなく就中馬脚ときては彼れの最も嗜好で日曜から月火水木金に至るまで「プラス」が土曜の一日で「マイナス」になる其の的の懷中をゼロにせしむるパチルスは所謂馬脚で而も一二にして足らざれども其中で最も巨大を重く採用するよし彼れに此の資金を供給する者は抑も誰ならん哉▲次に花月の茶羅其他は續きのれ樂しみに(一寸好坊)

●演藝だより

●歌舞伎座　好况なる浪界の明星雷右衛門一座廿四日の語り物は●●瀧口雷太郎(雷鳳)野狐三次(雷鳳)●お本助(快一)大石内藏之助(雷子斟八)太高源吾(雷吾)水府公(以上三席雷右衛門)

●浪花館　同館は來る廿七日より浪花節吉川小勝京山若圓一行乘込み開演

今日の運勢

●三月廿四日舊二月廿四日九紫　●癸巳先勝滿△一白　れ易き日交際上及取組協定事に注意すべし旅行は留意すべし△二黑　平和の日起業開店披露移轉凶△三碧　快欣の日家庭近親の事係累生せんとす不和葛藤を避くべし△四綠　親疎に拘らず世話事起る日なり他は無事△五黃　平靜の日起業開店探險旅行商命名委囑披露に良し△六白　安動徒勞多き日なり謹愼の事土木建築の業は進んで好し△七赤　改革整理移轉模様方針替に吉他は手控への事紛爭不和の端起り易し△八白　賭事及虚飾扮裝の事を戒しむ他は靜粛談合委囑嫁談に妙△九紫　容疑若くは離間の恐れあり火の元用意の事新事旅行金談移轉見合す可し

京城居留民團告示第二十號

本籍住所居所氏名年齡不詳
內地人　男壹人
推定年齡約五十歲

相貌
一、丈五尺三寸位　一、頭髮薄ク三分刈　一、顏丸キ方　一、眉毛濃キ方　一、耳目鼻口並　一、中肉ニシテ色黑キ方　一、特徵　後頭部ニ長サ約一寸位ノ切リ傷ノ古キ痕跡アリテ一見人夫頭体ナリ

着衣
一、茶色羅紗ノ古背廣服
一、薄キ茶色(セル地)詰襟古洋服
一、茶褐色ノ古短袴
一、古キメリヤス(シャツ)
一、木綿地古兵兒帶
一、足ニ黑ノ古靴下二枚ヲ穿テ

死因ハ腦振盪ニシテ場所ハ京城部龍山坊府坡石橋契二百七十七番戶盧五一方ノ門口ヨリ約一間餘隔ツル南方大道路上

右ハ本筋ニ於テ相當檢視ノ上引渡タルモノニ有之候ニ付心當ノ者ハ申出ヲルベシ

明治四十四年三月廿日
京城居留民團民長　古城菅堂

▲四月廿三錢▲五月廿五錢
●仁川米豆取引
▲四月前場……▲五月……
▲大阪期米
北西の風晴れ
●天氣豫報

腦病全治新藥 健腦丸

神經をしづめ◎腦病を全治す

島村醫學博士の有效證明を得たる健腦丸は、腦病神經病に奇効を奏し、逆上を引下げ、便通を心能し、中風卒中を未發に防ぎ、恐るべき腦充血を全治す

記憶力悪き人、頭痛する人、神經衰弱にて氣分鬱ぐ人、常に腦神經を勞する人の必用藥は獨り本劑のみ也

定價 一日分十錢、三日分廿錢、七日分四十五錢、二週分八十五錢、五週分金壹圓

本舗 大阪心齋橋二丁目 四平商會藥房
分店 大阪平野町堺筋北 丹平商會分店
東京日本橋箱屋町 丹平商會支店
全國有名藥店に取次す

代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房
電話九百四番 振替口座 京城 千六十八番

梅毒根治の確効ある新藥六〇六號

を左の規定に依り治療を施行す

一、治療ぜんとする者は先づ病毒の有無輕重を驗診（ワッセルマン反應）し之に依り新藥を注射す
一、新藥注射後更に病毒有無の驗診（ワッセルマン反應）を行ひ根治したるを確認して注射を終る
一、本治療は極めて秘密に行ふを以て希望者は本人若くは書状を以て當院河野醫師に内報すること

本町四丁目（電話二四番）贊化病院

◎貸金 旭町二ノ一五 別府高橋
有給者には極秘密に低利融通可申候

淺田飴

たんせきに苦しむ人と常によわき人の好伴侶！

東京 大阪 堀内

京城南大門通 新井藥房
電話 一〇六番 九〇四番
振替口座韓國 八十六番

丸一子ールー

和洋太物 わた商 ふとん 關戸かや 丸一 京城本町二丁目 桑原商店 電話四八三番
ゑりもの ありもの 丸一 出張所 電話千九百六十番

玉の子ールを手に引いて我がふみ事に通ふ人のまねあるけり

農林と園藝

◎山林用及園藝種苗の供給
◎造林其の他森林及び農業土木の請負
◎果樹園設計及び植付け管理の指導
◎農場設計及び管理の受託
◎農具及び肥料農産製品の販賣
◎商品の委託並に實地請負
◎詳細の營業案内は御申越次第贈呈す

本店 京城南大門通御成町十二番戸 朝鮮農林商會（電話一四六〇）
主任 井上植太郎
出張所 釜山寶水町二丁目一五一番戸

水車唐箕製造販賣

京城昭町百七番戸 土井米吉工場 電話千三百二十六番

來れり

寫眞撮影の時季
幻燈器械
寫眞器械
藥品材料一切
旅行用娛樂用營業用

直輸入

京城本町四丁目 織居寫眞機部
電話二六二番 振替貯金二三一番

資本金五百萬圓

本店 東京日本橋區吳服町一番地
派出所 京城旭町二丁目百十五番戸 電話番號一六八一番

東京建物株式會社京城派出所

一、土地建物抵當貸附
一、月賦償却建物建築 建築費用は尤も薄利に請負申候又月賦償却金一千圓に對し五ヶ年とせば毎月元利金二十三圓七十九錢宛に有之候今や解氷期に近き候に付直接御申込を乞ふ

◎和洋珍草花類種々
◎庭園用樹類各種
◎果樹木苗木類良種
◎山林用苗木類種々
◎盆栽及觀賞植物類
◎庭園築造工事請負

時下春陽之候各位益々御壯健奉大賀候然而例年の通り母園各苗地より澤山輸入致し安價大販賣仕候條愛園諸彦目下移植好時期に候間此期を逸せず多少に拘らず陸續御購求の程願上候尚○竹專園は盆栽類草花類の皆鉢もの至極簡便に且つ價少の相料にて希望の方に貸付け仕る可く御望の方はハガキにて御通知被下度候

京城旭町一丁目第四十九番 萬樹園 植田常藏

義齒術一般
京城明治町一丁目（森、村貿店隣）
榊齒術所
電話は（六六九番）へ

鐵冷温泉

温泉湯

此の温泉は左の如き病に効き妙なり
かつけ、痔疾、りウマチス、腰痛、中風、ひふ病、梅毒、りん病、子宮病、血の道、神經痛、やけど、マラリヤ、ぜんき、腦胃加答兒、肺病、いんけつ症、きりきず、其他内用には鐵冷温泉を併用すれば尤も効能あり

旅館 浴客貸席

長谷川町一丁目韓銀建築所北横手 電話一四一一番

瓦斯コークス販賣
京城黃金町高等演藝館隣
酒井組 電話一一四九番

土地建物鑛山株券賣買

一、各道郡邑山林未墾地の賣物あり
一、本羅南道に四千七百餘町歩の賣物あり
一、京城市内に店舗住宅の賣物數多あり
一、金銀銅鐵山賣物あり

小林藤商店

一、確實なる擔保を以て資金の需用あり
一、年利一割二歩以上
一、公債株券多少に不拘買入申候
一、土地家屋管理依賴に應じ申候

京城明治町三丁目 電話六五五番

最上醬油
京 大 永登浦大塚釀造所

薄口醬油
や
特約販賣 京城 高仁川雄文店

入院隨意

六〇六號注射の需應す

仁川病院

院長 醫學士 由利弘
副院長 醫學得業士 長尾乙二
慈惠會醫學士 尾上早見
東京醫科大學 菊池徹
眼科專 藥劑士 常盤光雄

電話十六番

醇良清酒

醉不老傳 長春

京城明治町 大塚京城支店
（電話四百一番）

最上醬油

高

釀造元 仁川港萬石町 高杉醬油釀造場
電話七六五番

光鳳

釀造元 仁川宮町三丁目 深見勝三郎
電話二四八番 電信略號フ

文房具 和洋紙 測量器械 シノサキ本店

京城本町一丁目郵便局前
並買次營業申候
電話一六四八番 振替朝鮮一五四番

諸公債諸株券現物賣買

迅速確實に御取扱可申候
兼業

京城本町三丁目
大阪野村德七代理店
田中友吉商店
電話九九三

眼科

京城本町二丁目（元東洋合資會社跡）
金井眼科醫院
院主 前大阪醫院眼科部長 金井雪七
電話一五五番

富士の雪印
◉ 白酒

四斗五升詰、半樽、四合瓶詰二合瓶詰其他升賣
右は今年試釀致し賣出仕候間不拘多少御注文の程願上候

仁川本町三丁目 那波酒店 自酒釀造部 電話三三三番

純良消毒牛乳
京城東四軒町 岡野牧場 電話千六十九番

恩給年金諸公債券現物賣買
確實取引 月一歩五厘
京城中部壽進坊相思洞廿九統七月 韓路通り東洋生命保險裏丁 上州屋支店 電話九百五番

滋養高等牛乳 京城南大門外 韓國畜産會社 電話八八番

芙江 公州 間定期出帆廣告
芙江發毎日後一時四十分公州着後六時
公州發毎日前七時芙江着後四時半
御客様の娛樂用として新聞雜誌等の備付あり
京釜芙江驛前

中條運送芙江支店

キ
三月中 瀛船出帆廣告

海州行 天草丸 廿六日 三十日
安東丸 廿四日 廿八日
漢津 富里浦 屯串行 三省丸 廿八日
千葉丸 廿四日 廿六日 三十日
當島行 千葉丸 三省丸 廿六日

仁川本町四丁目 合資會社 秋田商會船舶部